

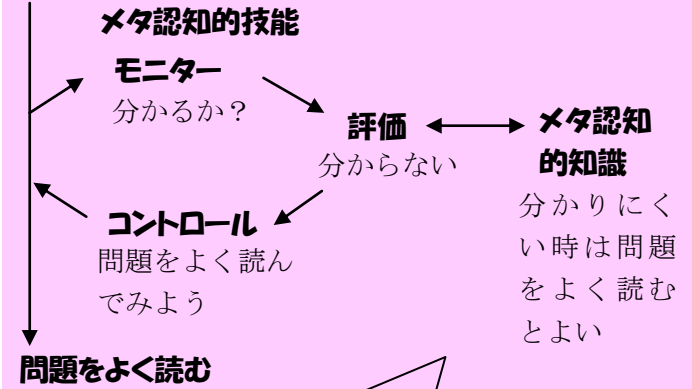
メタ認知の育成

「新しい問題に出合ったときや解き方を忘れたとき、子どもたちはどんなことを考えているのだろう。」

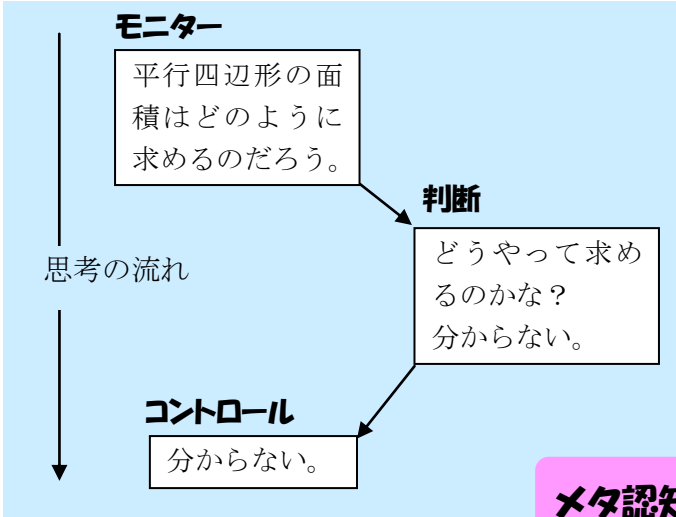
主体的・対話的で深い学びにつなげるためには、自分の学びを客観的に把握し認識することが必要です。問題の解き方や学び方、学習を振り返るときにメタ認知が働きます。児童に獲得させたいメタ認知的知識を『見える化』し、そのために必要なメタ認知的支援を明確にすることで、メタ認知を高める授業づくりができます。

【一般的に考えられているメタ認知】

鉛筆が止まる

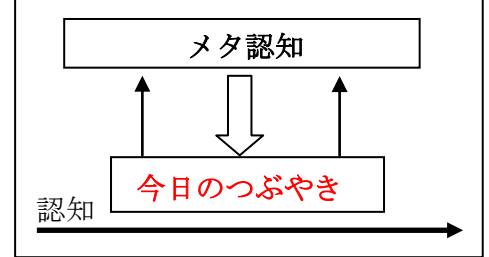


【分からない、できないとき】 (例) 5年生「面積」



メタ認知が育っていくと

【認知とメタ認知の関係】



学習の振り返りで児童に書かせたいことにつながります。
『かんたん算数授業づくりシート』の②⑤⑦とリンクします。

【方略に関する“今日のつぶやき”を使って問題を解くとき】

